

SOS ニュース

< 職場のトラブルとメンタルヘルス >

『心の病で労災最多』

職場でのストレスが原因でうつ病等の精神疾患を発症し、2012年度に労災認定された人が、前年度より150人多い475人に上り、3年連続で過去最多を更新したことが21日、厚生労働省のまとめでわかった。この内93人は自殺を図っており、未遂も含めた人数も過去最多となった。

申請者は、前年度に比べ15人減の1257人とほぼ横ばいで、高止まりしている。認定が大幅に増えた理由について、同省は「11年12月に認定基準を明確化し、より幅広く救済できるよう改めたことなどが影響したのでは」と分析している。認定された人の年代別では、30歳代(149人)、40歳代(146人)、20歳代(103人)の順。職種別では、「一般事務」(65人)が最も多く、システムエンジニアなどの「情報処理・通信」(30人)、「商品販売」(29人)が続いた。精神疾患となった理由では、「仕事内容や量の変化」(59人)、「嫌がらせ、いじめ、暴行」(55人)が多かった。「上司とのトラブル」(35人)や「セクハラ」(24人)も前年より大幅に増えた。又、475人とは別に、裁判所などで不認定が覆り、改めて労災が認められた人が34人いた。— 精神疾患の労災認定の基準が明確化した事で認定件数が大幅に増えた点、職場の安全衛生への取り組みが一層求められます。 ※ 参考：H25.6.22 読売新聞より